

農試第 957-1号  
平成22年7月9日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長  
(公印省略)

## 平成22年度農作物病害虫発生予察特殊報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場病害虫防除室
Tel	0776-54-5100
FAX	0776-54-6403
E-mail	byogaicyu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

---

## 平成22年度農作物病害虫発生予察特殊報第1号

本県において、2010年7月6日にスイカにえそ斑点病の発生が確認されたので、7月9日付けで特殊報第1号を発令する。

全国では、1989年に鳥取県のスイカで初めて確認されて以来、高知県、長崎県、新潟県で発生が確認されており、本県では初めての発生である。

病 害 虫 名：えそ斑点病

病原ウイルス：メロンえそ斑点ウイルス—スイカ系統 (Melon necrotic spot virus スイカ系統：MNSV—W)

発 生 作 物：スイカ (品種：春のだんらん)

### 1. 発生の経過

2010年7月にあわら市内の圃場 (施設スイカ) で、果実表面が凹凸で内部果皮部分に黄褐色え死塊の症状が見られた。

当試験場にて RT—PCR 検定を行い、7月6日にメロンえそ斑点ウイルス—スイカ系統 (Melon necrotic spot virus スイカ系統) によるえそ斑点病であることを確認した。

現在、あわら市内の当該圃場における発生状況は、作付面積 3.5a のうち1株のみである。

## 2. メロンえそ斑点ウイルス—スイカ系統について

### (1) 病気の特徴

果実では、内部果皮部分まれに果肉部に黄褐色でスポンジ状の壊死塊がみられ、果肉は水浸状（うるみ）となり、空洞を伴うことも多い。また、葉では、退緑色小斑点、後に壊死斑点、葉脈壊死が生じ、葉柄、巻きひげにも壊死が現れることもある。

### (2) 伝染方法

土壤中に生息するオルピディウム属菌により媒介されることで伝染する。また、種子伝染、土壌伝染、感染植物からの汁液伝染もする。

### (3) 宿主範囲

本ウイルスは、スイカ、ユウガオは容易に感染する。また、メロン（サンライズ）、キュウリ（久留米落合 H）、カボチャ（はやと、新土佐）等の特定品種にも感染するが多くのメロン、キュウリ、カボチャ等のウリ科植物には感染しない。

## 3. 防除対策

- (1) すいかの連作を避け、ウリ科作物以外を輪作する。連作する場合は、蒸気、クロルピクリン等により土壌消毒を行う。
- (2) 一度使用した資材や用具は消毒する。また、せん定用具は、利用の都度、次亜塩素酸水溶液等で消毒を行い、日常の管理作業による接触伝染に注意する。
- (3) 発病株は感染源となるため発見次第、早期に抜き取り処分を行う。ただし、発病株を引き抜くと隣接する健全株の根部を傷め、本病の感染を助長する恐れがあるため、地際部から茎を切り取り、地上部をほ場外に持ち出す。また、地下部は収穫後にほ場外へ持ち出して適切な処分を行う。
- (4) 発生地域からの土壌の移動は蔓延を助長するので、ほ場で使用した農機具等を他の場所に移動する前に、土の除去・洗浄を行う。また、洗浄に用いた水については、他のほ場へ流れないように、発生ほ場に留めるなどの措置を行う。
- (5) その他  
現在、本病が発生していない場合でも、発生の拡大を防ぐため、予防的に上記の対策を行う。



図1 果実断面の症状



図2 内部果皮部分の黄褐色スポンジ状の壊死塊